

# さっぽろキャンドルナイト

s a p p o r o c a n d l e n i g h t



あかりを消したら、想いが灯る  
でんきをけして、スローな夜を

さっぽろキャンドルナイト実行委員会

北海道札幌市

# 「個々の点を、ゆるやかにつないで、線や面に。」 さっぽろキャンドルナイト実行委員会

キャンドルナイトは、2001年のカナダの「自主停電運動」にヒントを得て始まり、2003年に「1000000人のキャンドルナイト」として全国に広がりました。札幌でもいくつかの団体がキャンドルナイトの取組を行っていました。



個々に行われていたキャンドルナイトの点を緩やかにつないで線や面にして、より多くの方に伝えることで、『世界に誇れる環境文化都市札幌』の実現に寄与しようと、市民団体・事業者・市民・札幌市が協働する「さっぽろキャンドルナイト実行委員会」が生まれ、2004年から活動を始めました。

実行委員会は、自らアクションを行うのではなく、一年で最も日が長い夏至前後に、「キャンドルナイトイベントを実施するお店や団体」、「店舗や客席の灯りをいつもより控えめにする、キャンドルを点灯するなどいつもと違う演出をされるお店」、「消灯やノー残業デーを実施する事業所・団体」、「協賛や広報協力をしてくださる団体・事業所」を募集して、パンフレットやホームページで広報する役割を担っています。

## メインビジュアルは、手をつなぐ人びと



メインビジュアルは、2005年に、実行委員会や参加団体が集まって決めました。その頃は、毎年行われるイベントでも、ポスターは年ごとに変わることが多かったのので、そうではなくて同じビジュアルをずっと使っていこうという意見が出て、皆の賛同を得ました。

そして、現在も手をつなぐ人びとのビジュアルを使っています。ポスターを見ると、「今年もこの季節が来たのですね。」という声も聞かれるようになりました。

いろいろな場所で、スローで豊かな時間が流れています。

キャンドルナイトの主役は、「札幌市内や近郊で開催される一つ一つのイベント・レストランの主催者の方々、そこに参加されるの方々、自宅でスローな夜を過ごす皆さん」です。

レストランやカフェの方々が、それぞれの「お店」で、その個性や特色を活かしながら、環境や平和など、さまざまなテーマについて、いらした方々と考えたり、地域の人たちとつながる機会を持ってもらえるのが、特徴です。団体の方々も、キャンドルナイトの機会を、それぞれの団体のミッションを遂行する場として活用してられます。



お店の常連の方によるヴァイオリン演奏が行われたカフェ。



果樹園では、一人芝居、日本舞踊、キーボードやサックスの演奏、日本舞踊と地産地消の軽食で国際ワークキャンプの若者も加わり、交流



ソイキャンドル作りと地豆のお話会が開催されたサロン





地域の子どもを対象とした「おばけやしき」を開催する有機八百屋さんでは、お店のお客さんも協力。



公共施設では、深海をテーマに、魚の多様性についての講演と大学のジャズ研究会による音楽演奏。



屋外イベントでは、キャンドル作りのワークショップとコンサートが行われた。



オープンマイクが行われたカフェ。今年は、この参加型のスタイルが5ヶ所になった。



牛乳パックを使ったキャンドルホルダー作りの講座を開催したボーイスカウトのグループ



それぞれの会場で、パンフレットが配られ、他の取組を知るきっかけに。

それぞれの場所で、いろいろなつながりが生まれています。